

鴻巣市版スーパー・シティプロジェクト ～「人にも生きものにもやさしい コウノトリの里 こうのす」の実現～ 地域まちづくり計画



令和7年6月
鴻巣市

取組の概要

まちづくりにおける課題

本市の人口は、平成27年以降、転入の超過傾向が続いているものの、自然増減は減少傾向にあり、全体としては減少傾向に転じている。少子高齢化が進む中、市内産業の核となる農業・商業の担い手不足の解消や交通弱者への利便性の高い公共交通の提供が求められている。

また、本市の地域経済循環率は61.4%と低く、まち・ひと・しごとの好循環を生み出すため、仕事の創出や地域経済の活性化を図る必要がある。

さらには、自然災害が激甚化・頻発化する中で、市民の安全・安心な生活を守るため、災害時にも強いまちづくりが必要である。

まちづくりの方向性

「人にも生きものにもやさしい コウノトリの里 こうのす」の実現を目指し、コウノトリと共生できる豊かな自然環境づくりをベースとして、市域のおよそ半分を農地が占めている本市の土地利用の特性を活かしつつ、市内JR3駅や道の駅といったそれぞれの立地に適した地域拠点の形成やにぎわいの創出を目指す。

また、「歩いて暮らせるまちづくり」の実現のため、各拠点等をつなぐ利便性の高い公共交通を維持するとともに、駅周辺エリアをにぎわいのある空間にする。

防災・減災対策を進め、市民が安全・安心に暮らせる持続可能なまちづくりを進める。

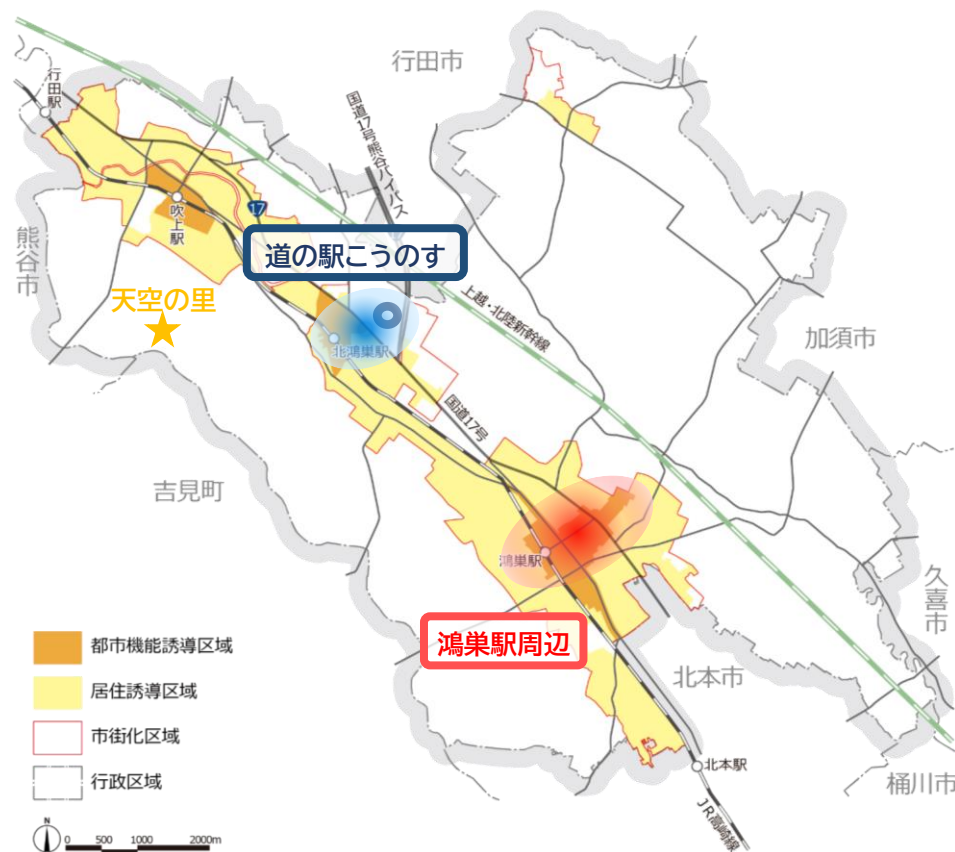
他の計画における位置付け

- ・第6次鴻巣市総合振興計画
- ・鴻巣市公共施設等総合管理計画
- ・鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・鴻巣市地球温暖化対策実行計画
- ・鴻巣市SDGs未来都市計画
- ・鴻巣市道の駅整備計画
- ・鴻巣市都市計画マスタープラン
- ・鴻巣市空家等対策計画
- ・鴻巣市立地適正化計画
- ・鴻巣市DX推進計画

対象地域及び区域

市全域（主に都市機能誘導区域及び道の駅周辺）

地图



地域の現況

人口・世帯の状況

本市の総人口は、平成12年から平成22年までの10年間は12万人前後で推移してきたが、近年は減少傾向に転じており、令和7年4月時点で117,473人と前年より106人の減少となっている。人口増減において、自然増減については、平成20年以降、減少が続いているが、社会増減については、平成27年以降、9年連続で転入超過となっている。

また、年齢3区分別人口をみると、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）の割合が減少する一方で、老年人口（65歳以上）の割合が増加しており、少子高齢化が進行している。

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、令和22年には総人口が101,288人と10万人前後になるとともに、市民の3人に1人以上が高齢者（高齢化率37.7%）になると推測されている。

なお、世帯数は、令和7年4月時点で53,820世帯と前年より730世帯の増加となっている。

地域交通の状況

本市は、東京都心から約50kmに位置しており、鉄道交通では、都心と高崎方面を結ぶJR高崎線が通勤・通学の主要な交通手段となっている。

平成27年3月に「上野東京ライン」が開業したことで、東京圏への乗り入れの利便性がさらに向上した。

道路交通では、JR高崎線と並行して国道17号が走っている。また、国道17号上尾道路の整備に併せ、市域の道路ネットワーク網を構築するため、接続する都市計画道路等の整備を進めている。

また、本市の公共交通は、自家用車に過度に頼らなくても生活できる社会を目指し、近隣市町を結ぶ民間バスと市内8コースを運行するコミュニティバス「フラワー号」を中心に、AIを活用した乗合型デマンド交通「こうのす乗合タクシー」とデマンド交通「ひなちゃんタクシー」を運行している。

開発の状況

本市の土地利用は、田が約37%、畑が約11%、宅地が約23%となっており、約5割の土地を農地が占めている。近年の土地利用区分の構成比に大きな変化はないが、宅地が増加傾向にある一方で、農地は減少傾向にある。

市街化区域の面積は、行政区域全域の約2割程度で、人口の約8割が市街化区域に集中している。

市街化区域内の土地利用構成は、都市的土地利用が約9割を占めている。都市的土地利用は住宅用地が主体であり、工業用地はまとまって集積し、商業用地は大規模なものが幹線道路沿道等に、小規模なものは駅周辺等に多く分布している。

駅周辺の拠点開発は、鴻巣駅東口の市街地再開発事業及び北鴻巣駅周辺の土地区画整理事業が完了している。また、北新宿第二土地区画整理事業と広田中央特定土地区画整理事業の2つの市街地開発事業を現在、施行している。

地域資源

本市は、埼玉県ほぼ中央に位置し、地形はおおむね平坦で、豊かな田園地帯が広がり、西部を荒川、中央部を元荒川、東部を見沼代用水が流れ、水利に恵まれた地域となっている。

江戸時代から400年の歴史と文化がある「ひな人形製作」と、戦後、本市の気候風土に適したパンジーの生産から始まった「花き生産」が現在にも引き継がれ、「ひな人形と花のまち」として、本市の大きな特徴となっており、「びっくりひな祭り」には多くの方が来場し、にぎわいを見せている。

令和3年10月にコウノトリのつがいを受け入れ、令和4年1月に野生復帰センター「天空の里」を豊かな自然環境のシンボルとしたまちづくりの拠点施設として整備した。将来的には、コウノトリを放鳥し、野生復帰したコウノトリが生息できるよう、豊かな自然環境の保全・再生に取り組んでいる。

本市と吉見町の間を流れる荒川の川幅(2,537m)が日本一であることにちなみ誕生した「こうのす川幅うどん」を始めとした、川幅グルメがご当地グルメとなっている。

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

まちづくりのコンセプト

鴻巣駅周辺や整備を進めている「道の駅こうのす」といったそれぞれの拠点の特性を活かした、にぎわいのあるまちづくりを進める。「道の駅こうのす」では、にぎわい創出や魅力発信の拠点としての機能だけではなく、農業振興拠点として市内の農業の発展に寄与するほか、本市の特徴のひとつであるコウノトリを道の駅でも映像として楽しめるよう整備することやイベント等の市政情報を発信することで、他の拠点（地域）への回遊性を促し、まち全体での地域活性化を図る。

また、公共交通におけるデジタル技術のさらなる活用と最適化を進めるとともに、拠点周辺における徒歩でのアクセス性を高める環境整備の推進により、拠点（地域）間の回遊性及び拠点における生活利便性の向上を図る。

加えて、ゼロ・カーボンシティの実現を図るとともに、災害時にも安全・安心に暮らせるまちづくりを進めるため、再生可能エネルギー設備の整備や公用車等のEV化の推進を図る。

推進体制

市政運営の最高方針及び重要施策を審議する「鴻巣市経営政策会議」において、各部相互間の調整を図り、全庁を挙げた本プロジェクトの推進を図る。

個々の事業の実効的な推進を図るため、各所管課における審議会等により、きめ細かな事業の推進を図る。

また、まちづくりのコンセプトを実現するため、多様なステークホルダーと連携し、本プロジェクトの推進を図る。

事業全体の概要

【コンパクト】地域特性を活かした拠点の形成とにぎわいのあるまちづくり

- ・鴻巣駅周辺における空き家・空き店舗の活用促進と都市機能の集積化を図り、花で彩られたウォーカブルなまちを形成する。
- ・歩いて暮らせるコンパクトで魅力ある市街地を形成する。
- ・産業振興、にぎわい創出、魅力発信などの拠点施設となる道の駅を整備する。

【スマート】デジタル技術を活用した情報発信と持続可能な産業・社会の実現

- ・道の駅におけるデジタル技術を活用した効率的な運営環境の整備と「天空の里」からの映像配信や市政情報の発信を行う。
- ・持続可能な農業の実現に向けたスマート農業の導入支援を行う。
- ・AIを活用したデマンド交通の運行や自動運転技術の導入による公共交通の充実を図る。

【レジリエント】災害時における電源確保とBCP対策によるレジリエンスの強化

- ・災害時における電源確保策の多様化の一環として、公共施設における再生可能エネルギーを活用した発電・蓄電設備の整備を図る。
- ・公用車やコミュニティバスのEV化と公共施設におけるEV用充電設備の整備による地域レジリエンスの向上。
- ・既存ITシステムの刷新による緊急時における継続的な市民サービスの提供を行う。

計画図



- ### 道の駅こうのす
- 産業振興、にぎわい創出、魅力発信などの拠点施設となる道の駅の整備
 - デジタル技術を活用した効率的な運営環境の整備と「天空の里」からの映像配信や市政情報の発信



市全域

- コンパクトで魅力ある市街地の形成
- スマート農業の導入支援
- AIを活用したデマンド交通の運行や自動運転技術の導入による公共交通の充実
- 再生可能エネルギーを活用した発電・蓄電
- 公用車やコミュニティバスのEV化
- EV用充電設備の整備
- 緊急時における継続的な市民サービスの提供

	住宅地ゾーン
	商業・業務地ゾーン
	工業・流通地ゾーン
	公共施設地ゾーン
	沿道サービス地ゾーン
	沿道サービス地(検討)ゾーン
	交流・産業ゾーン
	農業・集落地ゾーン
	公園・緑地ゾーン

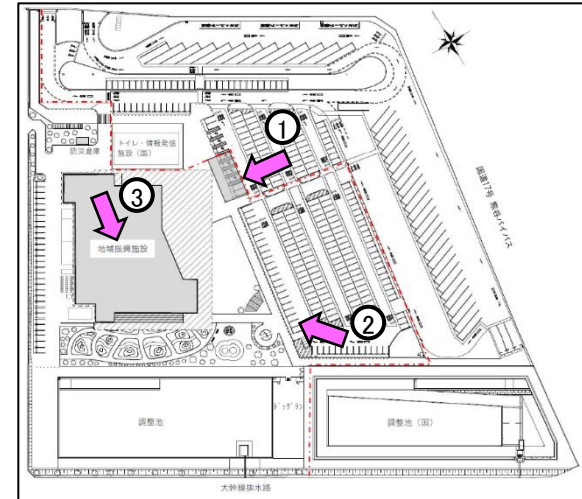
鴻巣駅周辺

- 空き家・空き店舗の活用促進と都市機能の集積化
- 花で彩られたウォークアブルなまちの形成

「道の駅こうのす」の整備イメージ



外観パース(正面)①



施設平面図



外観パース(広場)②



内観パース(売場)③

【コンパクト】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考
			R7	R8	R9	R10	R11	R12 以降	
空き家の活用促進	市	生活環境の保全及び安全・安心な地域社会の実現に向け、空き家の発生抑制と適切な管理、空き家除却後の跡地活用を促進する。	空き家バンクの運用						
			老朽空き家等解体補助						
			空家等対策計画の改定	計画に基づく事業の実施					
空き店舗の活用促進	市・商工会・民間事業者	市・商工会等と連携し、創業支援等による空き店舗の活用促進や、補助金による空き店舗対策等を通じて、商店街の活性化を図る。イベント等を実施することで商店街の魅力を発信する。	空き店舗対策事業費補助						
			がんばる起業家支援補助（創業支援）						
			商店街活性化事業の効果検証、事例研究、新たな支援施策の検討	商店街の活性化・空き店舗の活用を推進					
花で彩られたウォークアブルなまちの形成	市・市民団体	街道沿いやまちなか等に花を装飾することで、にぎわいを創出するとともに、「花のまち こうのす」としての魅力を発信する。	フラワーロードの創出						
			まちなかの花の装飾や花壇等の整備						
歩いて暮らせるコンパクトで魅力ある市街地の形成	市	歩いて暮らせる魅力ある市街地づくりに向け、中心拠点である駅から市街地への移動利便性を高めるために鴻巣駅東口にエレベーターを整備する。	エレベーター整備の設計	エレベーターの整備工事		供用開始			都市構造再編集 集中支援事業補助金(国)、みんなに親しまれる駅づくり事業補助金(県)を活用予定
道の駅の整備	市・国・民間事業者	本市のにぎわいの創出と地域産業の振興を図る拠点施設として「道の駅こうのす」を整備する。	道の駅の整備			道の駅の管理運営			新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)(国)を活用予定

【スマート】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考
			R7	R8	R9	R10	R11	R12 以降	
道の駅におけるデジタル技術を活用した効率的な運営環境の整備	市・民間事業者	道の駅にPOSシステムを導入し、売上や購買・在庫などの情報を一体的に管理することで、効果的・効率的な施設運営を図る。	導入機器等の検討		機器の設置	供用開始			
デジタル技術を活用した市政情報の発信	市	道の駅において、デジタルサイネージ等のICT技術を活用して、地域イベント等の市政情報を発信するほか、「天空の里」からコウノトリの映像配信を行い、回遊促進を図る。	導入機器等の検討		機器の設置	供用開始			
持続可能な農業の実現	市・民間事業者	農作業の効率化や生産性の向上を図るため、スマート農業の導入・活用を支援する。	先端技術や導入事例等の情報収集・情報発信		支援策の検討・実施				
AIを活用したデマンド交通の運行	市	AI技術の活用により、誰もが利用でき、利便性の高い公共交通を確保する。	地域公共交通計画の策定		計画に基づく事業の実施				地域内フィーダーシステム確保維持費国庫補助金(国)、地域公共交通DX・コンパクト＋ネットワーク事業(県)を活用予定
			現行システムの運用			供用開始			
			新たなAIを活用したデマンド交通の検討						
自動運転技術の導入	市・民間事業者	公共交通への自動運転技術導入の可能性を検討する。	事例研究						

【レジリエント】事業一覧

[illegible]

KPI

コンセプト	指標	基準値(調査時点)	目標値(達成年度)	備考
全体	鴻巣市が住みやすいと思う市民の割合	52.6%(令和5年度)	62.0%(令和8年度)	「第2期 鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の指標に基づく
コンパクト	まちのにぎわいが創出されていると思う市民の割合	50.4%(令和5年度)	65.0%(令和8年度)	「第6次鴻巣市総合振興計画」の指標に基づく
コンパクト スマート	観光入込客数	1,522,364人(令和5年度)	1,700,000人(令和8年度)	「第6次鴻巣市総合振興計画」の指標に基づく
スマート	市内の交通環境に満足している市民の割合	73.4%(令和5年度)	80.0%(令和8年度)	「第6次鴻巣市総合振興計画」の指標に基づく
レジリエント	市域からのCO2排出量(エネルギー起源CO2)	483.4千t-CO2(令和5年度)	404.5千t-CO2(令和8年度)	「第6次鴻巣市総合振興計画」の指標に基づく